

科目名称 Course title(Japanese)	地域連携論2		
科目名称(英語) Course title(English)	Community Collaboration II		
授業名称 Class name	地域連携論2		
教員名 Instructor	榎本 のぞみ		
開講年度学期 Year/Semester	2018年度 後期		
曜日時限 Class hours	木曜3限		
開講学科 Department	経営学部		
単位 Course credit	2.0	学年 Grade	1～4年生
科目区分 Course category	一般教養科目 キャリア形成を学ぶ科目群	履修形態 Compulsory/Elective	選択
概要 Descriptions	<p><概要> 環境、エネルギー、産業、雇用など、国や地域が抱える課題解決のために、産官学ならびにあらゆる団体のヨコの連携をとって事業環境整備や地域再生の取り組みが世界各地で展開されている。 持続可能な地域社会は、地域に技術や資源が存在するだけでは実現せず、それらを活かして機能させる人とのネットワークと信頼関係の構築、関係者相互の価値観の共有がカギとなる。地域連携論1・2はともに、これら社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織を重視するソーシャル・キャピタルの考え方をベースとし、特に地域連携論1では、以下の、3部から構成され、よりコミュニティを総合的視点で分析するのに対し、</p> <p>1)一定期間で多くの成果を上げたドイツの地域再生戦略 2)ポールポラック提唱の貧困解決方法の普遍性と特殊性 3)ケースから学ぶシミュレーション</p> <p>地域連携論2では、より企業と大学を中心とした地域連携の取り組みを学び、プレイヤーの視点から課題解決を導く。</p>		
目的 Objectives	<p><目的> 地域再生や振興の事例を通して、地域連携のあり方を学び、実際に地域が抱える課題解決に役立つ知識・ノウハウを修得し、国内外の自然・人間・社会を広く俯瞰できる能力を養うことを目的とする。</p>		
到達目標 Goals	<p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を理解し、ポテンシャルを発掘する課題発見力を身につけ、実行に移す準備ができる。 ・地域の課題解決方法に関する創造的思考力を身につけ、実行に移せる準備ができる。 ・地域における産官学の連携において、信頼や協力関係構築の重要性について理解できる。 		
履修上の注意 Course notes prerequisites	地域連携論1を履修していることが望ましい。		
準備学習・復習 Preparation and review	毎回与えられたテーマについてグループワーク・プレゼンを行い、成果を上げるため、授業前に相応の準備が必要である。		

成績評価方法 Performance grading policy	講義と演習の出席状況、及びレポートを総合的に評価する。 レポート :40% 授業参加度 :40% 平常点(学習態度):20%
成績評価基準 Performance grading criteria	S: 到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている A: 到達目標を十分に達成している B: 到達目標を達成している C: 到達目標を最低限達成している D: 到達目標を達成していない
教科書 Textbooks/Readings	随時資料を配布、またはLETUSにupする。
参考書 Course material	『世界を巻き込む』中村俊裕、ダイヤモンド社 『社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門』駒崎弘樹、PHP新書 他、講義中に随時紹介
授業計画 Class plan	1. 序論 2. 企業の社会的責任から協働へ 3. 社会起業・ソーシャルビジネス 4. ソーシャルイノベーション 5. イノベーションと教育 6. アメリカの教育機関と産業 7. シリコンバレーのエコシステム 8. 日本の大学の地域連携 9. 神楽坂エリアの事例研究(外部講師) 10. 神楽坂エリアのフィールドワーク 11. 神楽坂エリアのSWOT分析 12. 事例研究と演習 13. 事例研究と演習 14. 事例研究と演習 15. プレゼンテーション・まとめ
教職課程 Teacher-training course	
備考 Remarks	オフィスアワー: 水曜 12:50 - 14:20
9986232	